

岡山日置流印西派研究会

代表者：守田勝彦

所在地：岡山市南区築港新町

備中足守藩吉田家弓術文書の解読・解説と出版

◎ 目 的

足守文庫に所蔵されている備中足守藩吉田家弓術文書は、83点におよぶ大量の弓術伝書群である。また、足守藩の吉田家は、岡山藩の弓術指南役吉田家と同じ祖から出た弓術宗家を名乗り得る名家である。今までの翻刻された日置流伝書は、宗家から他姓の者に出されたものであり、吉田宗家自身の収蔵伝書そのものが翻刻されたことはない。よって、この文書群は質の上でも最も上質な弓術伝書といえる。その内容も歴史・目録・釈義・教歌と多彩である。

当研究会の目的は、この備中足守藩吉田家弓術文書の解読及び周辺調査を含めた研究と、その成果を公表、出版することである。

◎ 経 過

昭和56年ごろ岡山大学弓道部のOBが足守文庫で83点にのぼる大量の弓術伝書群を発見した。平成6年にこれが岡山大学弓道部OB会に報告され、有志で足守文庫を訪問した結果、OB会で翻刻を決議した。しかし、その後毎年OB会の議題にのぼるものの翻刻の組織的行動にいたらず、個別私的な当文書の歴史的背景や周辺調査に終始した。しかし、この周辺調査から、当文書群が量の多さのみでなく、その質において宗家文書として今までにない高質のものであることが判明し、解読・出版の意欲がますます出てきた。そこで当研究会を立ち上げ、文書目録の整備、原書のマイクロフィルム撮影などを行い、本格的解読作業をへて『日置の源流』として平成17年12月出版した。しかし、これでは取り上げられたのは備中足守藩吉田家弓術文書83点の内、わずか11点であった。

その後、逐次未読原書の解読を進め史料を厳選し、今回、『続 日置の源流』と題して続編を出版することができた。

これにより、宗家弓術文書として貴重な備中足守藩吉田家弓術文書の全貌をほぼ明らかにできたものと自負する。

それにしても、こうした活動には資金的背景がはっきりしないと、いくら意義ある活動で総論賛成は得られても、具体的活動にはならない。出版へ向けての研究会の具体的活動を支えてくれたのが、貴財団からの助成であり、それに前回の正編は岡山大学弓道部創部50周年記念事業として、今回の続編はOB会員から寄せられたカンパを加えて出版することができた。OB会の結束強化にもつながった出版活動であった。

◎ 成 果

『続 日置の源流』を出版した。

当研究会は、足守文庫所蔵の備中足守藩吉田家弓術文書の出版を企画し、平成17年に『日置の源流』と題して出版した。しかし、ここで取り上げたのは原文書83点のうち11点にすぎなかった。よって、その後も翻刻作業を進め続編を出版して、貴重な弓術宗家の伝書類の全貌を明らかにしたいと希望していた。

今回、新潟のオンデマンドの出版社（太陽書房）から『続 日置の源流』と題して出版することができた。これにより、備中足守藩吉田家弓術文書の全貌を紹介できることになった。

本書の中には「神道の巻」と、この解説書である「神道抄」を取り上げていますが、これらは、従来免許皆伝または唯授一人を受けた人だけに与えられていたもので、今までに公表されたことのない貴重な文書である。

また、「家伝書」と題した釈義伝書があり、これには、小さな字で一面に注釈文が附されている。表紙には他見を許さざる書也との注記も見られ、恐らく数多い目録釈義書の底本ではないかと思われる。

さらに、日置流創生期に多賀豊後守高家を通じて小笠原系の伝書の流入を示唆するものとして、「的場初而矢渡之次第」を取り上げてある。

いずれも日置流宗家ならではの文書であり、その内容も目録・釈義・教歌・指導要録・歴史など多岐にわたり、単に日置流印西派のみならず、今後の弓道界全体に資するものと確信・自負している。

◎ 今後の課題と問題点

- 1 岡山県立図書館・岡山大学附属図書館の岡山藩吉田弓術宗家関係の伝書翻刻により、さらに岡山藩の日置流印西派伝書解明に取り組みたい。

これにより、本家筋にあたる岡山藩の日置流印西派の解明につながるものと思われる。

- 2 足守藩の藩政関係史料が、岡山県立記録資料館に寄託されているので、この中に含まれる弓術関係史料の翻刻によりさらに比較研究が可能と思われる。

●執筆者：守田勝彦／協力者：妻鹿淳子、在間宣久、定兼 学

● 会のプロフィール

【設 立】平成11年 7 月

【会員数】25名

【活動歴】備中足守藩吉田家弓術文書の翻刻および文書の歴史的周辺調査を行い、成果として、『日置の源流』『続 日置の源流』を出版